

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

6号

2006年3月20日



あなたも わたしも “まちファン” (まちの応援団) ♪

“まちファン”

これって「まちづくりファンド」、「まちのファン」、
「わたしのまちはおもしろい(ファン)」のこと。
つまり、このまちが大好きなファン(応援団)のこと。

便利な生活を求め、変わり続ける町、でも好きなまち。
このまちに住み続けたいと思っているのでは...?

忙しい中、何となく走り過ぎ去る日々、
ふと気が付くと、変容した町に置き去りにされ、
さびしさを感じる時もあるのでは?

そんな時に安心できる場があればいいと思う。
元気な人、楽しい人、やさしい人、困っている人に出会える
居心地のいいまち。

まちづくりに参加するのは、どんな形でもいい。
「ねえ、知っちゃう? 神田にかぐや姫のお宿があるがやとー」
「おもしろそうやねえ。いっぺん行ってみようや!」
「御畳瀬ひもの祭りがあるき、行かないかんで」
「御畳瀬の干物はおいしいきねえ!」

それぞれに“このまちのファン”になれば、
安心して住み続けられるまちになる。

とりあえず、あなたも わたしも “まちファン” ♪

目次

2005年度 公益信託 高知市まちづくりファンド

第3回 中間発表会

- 中間発表会の流れ/運営委員コメント 2
- プレゼンテーション
- 「まちづくりはじめの一歩」コース 3
- 「まちづくり一歩前へ」コース 5
- 中間発表会を終えて 9
- アンケート結果 10

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

募集要項 11

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定 12

「まちづくりはじめての一步」コース

■プレセンテーション

Group 1

1 いのちの電話相談

高知いのちの電話協会



2005年の電話相談数は4,854件、内容は悩み相談、自殺願望など多彩。広報に力を入れた結果、地元紙掲載の記事もあり、養成講座に28名の申し込みがあった。面接後、2006年11月21日に開講。約1年間、毎月3回の養成講座を経て、同年12月末、相談員の認定を行う予定。認定者は、勤務先の校内指導や、高知県社会福祉協議会の地域福祉推進事業で高齢者の話相手をするなど、協会以外でもカウンスリングの技術を生かしている。

- Q 今後の資金確保の見通しは？
- A 相談員になれば、受講料を払い、正会員になってもらう。年費は3,000円。その他、関係者からの寄付などで賄う。
- Q 相談員を知るには？
- A 難しい。精神障害の相談者が非常に多く、場所も公表できない。養成講座に来てほしい。
- Q 当協会の活動団体との交流は？
- A 向協会と、産業カウンセラーの養成講座で学んだ相談員が、相互に受講し合っている。
- Q 最近の相談内容の傾向は？
- A 80%が精神障害者。自殺願望の電話は意外に少ないが、高知県は全国で4番目に自殺者が多いため、その対応の練習もしている。

- 養成講座を開講できたこと、他にもカウンスリングの技術が生かされたことが良かった。
- 悩みの多い人が増えている。1人で明るくなくなるよう継続してほしい。
- 地道な活動に敬意を表する。養成講座で良い人材を育ててほしい。



Group 2

2 若草ミニサービス

若草ほのぼのの会



「地域の人による地域の高齢者のための地域のデイサービス」ということで、各町内会、自治会、老人クラブ、民生委員にも協力し、1月1日、週2回、10、11は町の医師による高齢者の健康についての話、10、11は町スモス見学、みかん狩り、12月は公開講座でのアドバイスを受け、防災訓練と3世代交流のまちつき大会を組み合わせ、1月は土佐落語をした。



- Q まじめな内容と楽しみ事を含み合わせた成果は？
- A 最初の申し込みは10名だったが、ベールニーからもらった飲み物の無料配布により、子どもたちの友だちや保護者が増え、約150名が参加。小学生に「お年寄りの顔を書いて、毎日声をかけよう」という呼びかけもした。
- Q これまでいろいろな事業を実施した中で、一番人気があったのは？
- A 参加者では、花見など、行楽的なこと。
- Q 参加料は？
- A 参加料は？また、講師への謝礼は？
- Q 参加者からはお年寄りに対して、必要場合のみ、講師料を支払っている。例えば、9月に開講した町内で開業中の医師には支払ったが、2月に開講する交通全課の職員への支払いはなし。

- 3世代交流、いいですね。(団体の)名前とお礼、ほのぼのとやる。楽しんで。
- 計画とお礼に実施していただき、まじめな内容と楽しみ事を含み合わせる工夫が良い。
- いろいろお礼と協力できている。高知の高齢者が元気に暮らしている。パワーに圧倒された。

Group 3

3 御量瀬地域のお祭りによる活性化とまちづくり

御量瀬ひもの祭り実行委員会



獅子舞の金子氏と打ち合わせをした。フリーマーケットに出店、干物販売をする中で、祭りのチラシを配布し、新しいつながりもできた。マスコミは3社が後援。3月5日の本番に向け、御量瀬にこだわった祭りになるよう検討中。駐車場確保の問題を解決し、地域の人や高齢者を取り込んだ大きな活動にしたい。少子高齢化でさびれたまちを、レトロで雰囲気のある古い漁村、干物、温かい人情を組み合わせ、祭りを継続するのが目標。



- Q 地域の協力を求めていく上で具体的な働きかけは？
- A 御量瀬の歴史散歩。歴史のある古いまちなので、地域の人たちと連携し、歴史に詳しい人が地元の良い話をアピールしている。高齢者にスポットを当て、おいしい魚の食べ方や、御量瀬の漁の仕事を「御量瀬漁り」という形で話す場、他から来た人たちとお話ができるような仕掛けにも取り込みたい。
- Q リン缶とは？
- A 手作りの竹筒にきれいな音色を出す。重川の人協力してくれている。
- Q 干物の店を市内中心部で出せないか？
- A 阿々、おびさんマルシェで干物を出している。

- 御量瀬は情緒ある所。まちづくりに活かしたい祭の場と思う。
- 他の催し(フリーマーケット)への参加によって、つながりができている点が良い。
- 住民参加の地域の活性化に拍手！大切に守っていくという団結が素晴らしい。

「まちづくりはじめての一步」コース

Group 4

4 ママの笑顔は子どもの笑顔はママのしあわせ! 子どもの笑顔はママのしあわせ!

育児サークル

「ドリーム・キッズ」



3月3日、赤石衛門ふれあいセンターで、絵本の読み聞かせ、季節の行事、敬老の日のプレゼントづくり、ピクニック、ママクッキングなどを実施。子どもたちを楽しませながら、母親同士で育児の意見交換や交流を深めている。参加人数は親子で30人程。転居族が多いので、そこから交流を深めてもらえるサークルにしていきたい。アンケートをもとに、2月から母親への本の貸し出しをする予定。



- Q 広報の工夫、父親の参加は？
- A ロコ三、「ママデイ」では、母親が子どもと離れた活動ができるというところが魅力で、気軽に入ってくれた参加者が新しい人々を呼んできてくれる。今のところ、父親の参加はないが、育児のメインが父親であれば参加できる。
- Q 転居が多いという点だが、次の狙いは？
- A 子どもが小さいので、スタッフと参加者の区別がない。子どもが幼稚園に入る際は卒業となるが、赤ちゃんがいる母親が同様に新しく入るので継続できる。
- Q 学校との連携により、年齢に幅をもたせることは可能か？
- A 現在、最年少が生後3~4カ月。最年長が2年保育に入園前の4歳児。屋内(赤石衛門ふれあいセンター)での活動なので、小学生や幼稚園児と手帳になる。

- 楽しい企画や雰囲気なのだと思う。ママデイ、キッズデイがあるのが素敵。
- 子どもの悩みは親にとって共通。助けられる親が増えるよう今後も継続してほしい。
- 他の育児サークルと交流し、意見交換をしたり、転居族に簡易の良し所を教えてほしい。

Group 5

5 みんなでふれあういきいき体操

鴨部げんきかい



体操をきっかけに、私たちのまちの触れ合い会をつくるのが目的。ミニデイでは、最初に手広ってくれた仲間が同じような場を設け、そちらと新しい交流も始まっている。支援センターの人たちが2月中旬に、鴨部地域のミニデイグループを集め、交流会を計画。活動では、なるべく費用がからぬよう努力しているが、ファンレターを受け付けていることを知り、賛金面みんなが協力してくれるようになった。



- Q 椅子の購入は？
- A 参加者から資金の協力もあり、予定より高価で丈夫な椅子を購入していくことになった。
- Q 現在の活動状況は？
- A 家からカセットデッキを持参し、保健師にタビリングしてもらって、オリジナルテープを作った。10月の交流会では筑波大学の先生から教えてもらった体操を取り入れ、元気よく活動している。半分以上の人が1書らしなのだが、互いを意識し、和気あいあい、すこくい雰囲気になってきている。

- 関わりが主体的になり、活動の和が広がって、グループ同士の交流がきまそうなところ。高齢者が生きがいをもっと前向きに楽しんでいるところ。地域で支え合うところが良い。
- 経費がかからぬよう工夫し、皆が会場を出して参加するようになって良かった。
- 自治会の理解を得るには、自身がそのメンバーに入ること。現在、たいした取り組みをしていない。自治会であったとしても、自身がリードするぐらいの気概をもつと良い。



いきいき体操

まちづくりはじめての一步

鴨部げんきかい

ママグループ

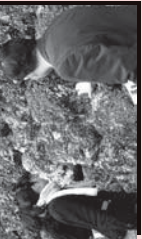
Group 4

4 学生を対象としたボランティア学習イベント(ボランティアキャンプ)の開催

こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」



学生がボランティアについて学び、体験することで、ボランティア活動を始めたいことを目指す「こうちボランティアキャンプ」の開催は3回目。「要約筆記 高知やまもも」、高知女子大学の「エスコーター」による活動紹介の後、交流会、分科会(①手話「手話サークル ゆびの会」)、「高知県聴覚障害者協会」②通訳「高知SGG善意通訳クラブ」、③読み聞かせ「高知こどもの図書館」での学習等をした。



Q 会員は増えたか?
A 会員は100名を超えた。運営スタッフとボランティアキャンプ(実行委員)の不足が問題で、今後どのように動員するかを検討中。
Q ボランティアキャンプは実施した結果は?
A 参加者がその後どう活動しているかは不明だが、今回は会員や知人の参加が多かった。2回目と異なり、「ボラの会」を知らなかった人の参加もあったので、多くの人がボランティア活動へのきっかけを写るという目的を少しは達成できたと思う。
Q 具体的な活動は?卒業後も活動しているか?
A 会員の動員と、「ボラの会」やボランティアについて知ってもらいたいためのボランティアキャンプの開催が主な活動内容。運営スタッフは半分以上が卒業生だが、学生団体なので、もう少し学生の力がほしいと思う。
Voic ● いろいろなボランティアの活動を学ぶことは素晴らしい。まちづくりで知り合った団体のイベントに参加するなど、広がりを感じる。何か目玉になる企画があるといいのでは? ● 活動に協力してもらい、本当に助かった。ホームページでの連絡は随分的に欲しい。

Group 5

5 縦のつながりによる豊かな心教育

特定非営利活動法人 高知市子ども劇場



さまざまな企画を体験する中で、子どもたちの心を豊かにする。ことを目指している。7月の「高学年キャンプ」では、松葉川キヤンブアフェア、10月は高知県立石山青少年の家でファミリーキャンプ、11月は瀬戸森へみかん狩りに行った。12月、冬の中高青(中高生)青年)合宿は大豊のため中止となったが、1月は高学年対象のボーリング大会を開催。4月は会員全員が集まるよう「春の親子フェスティバル」を開催する予定。



Q 若い世代のスタッフは?他団体との連携は?
A 若い世代は5名。体験活動なのだが、会員内で活動してしまいがちなので、次の夏には、他団体や地域にも働きかけ、会員にも認知されるような母親会を企画したい。
Q 地域のつながりや関係性をどう築いていくかは?
A 高知市青少年課の人とも話している。高知大学の中にも同じような活動をしているグループがあるので、話してみたい。
Q 大学生中心の活動だが、学生らしい面白さは?
A 今は下宿みの段階。5年後、現在の小学5年生が高校生になった時、スタッフとして面白い活動ができるよう、長い展望を考えている。
Voic ● 子どもの頃、キャンプやふれあいの場を通して、お兄さん、お姉さんに憧れ、大人になるのが楽しみだった。子どもと夢を写る青年が増えることを願う。 ● 高学年が主に知り、勉強会の企画をたり、ボランティアの場に積極的に参加していただろうか? ● 若い、柔軟な発想力をもって創意工夫し、地域とのつながりも強固に入れてほしい。

Group 6

6 地域元気づくり みんながあつまれる場をつくらう!

みんなが集まれる場をつくらう会



ふれあいの場所を提供するため、高須の絶海の近くに大きな家を借りて、木が生い茂る空き家を改装した。高齢者、障害者、子どもたちの集点となる場としての相手に対するいわりや命の大切さを学び、共に、楽しい時間を過ごしてほしい。高齢者には認知症の予防にもつながると思う。駐車場の確保が課題だが、パッチワーク、ちざり紙、料理等の教室を開いて、3年後には小規模多機能型通所施設を目指す。



Q 空き家を借りるお金の調達は?
A まちづくりファンドの助成金30万円を全て使った。今後は運営面で経理、自分たちで盛り上げて、協力してくれる人をつくらう。 ● 生協の組合員以外のグループメンバーとの関わりは?
A 窓口は生協だが、呼びかけにより、地域の人々にも知ってもらいたい。広げてほしい。
Q 高齢者、障害者、子どもをなるべく仕掛ける期間は?専門職が必要なのは?
A 生協(2店舗)では、これまで小さい子ども連れの母親の集まりを行って回り、イメージとして、そこに高齢者が加わるだけなので違和感はない。障害のある子どもが参加した場についても、専門職が必要かどうかについては考えていない。
Voic ● 小規模多機能型施設という目標がしっかりしているところが良い。 ● たいへん良い企画。将来の夢に向けて頑張ってください。 ● 障害のある子どもと長時間預かる体制も考えてもらえたら嬉しい。 ● 駐車場はあった方がいい。何とか確保できるよう、良い知恵を出してほしい。

Group 7

7 子ども達と共にほたるの飛び交う自然公園を目指す

楠谷川の自然を守る会



昨年、ほたるの養殖に取り組み、150匹の幼虫を公園内の池に放流したが、冬場の気温、水温の高さで低下した分に減り、成虫になつたのは約2割だった。現在、電気工事、ポンプの設置、間伐材や養殖場の木材確保等を終え、2月から公園での作業に移る。4月末までに、養殖場の建設、水路工事、ふ化のための環境整備をし、5月初旬には幼虫を放流する予定。5月27日(土)の「ほたる祭り」までに、ほたるが飛び交う公園をつくりたい。



Q 子どもたちの関わり方、学校との連携は?
A 楠内小学校と東果小学校の2校が中心。子どもたちの中で、リーダーやサブリーダーを決め、上級生と下級生が一様に自然を守る会。また、楠内小学校の課外授業では、公園で、ほたるの養殖、水との関係、餌などについて、老人会の人々が教えている。
Q 自然環境への取り組みは?、どのようなことをしているか?
A 主に、川の清掃。
Q ほたるを他の地域から捕ってくる。川の生態系を壊したくないのでは?
A 他から捕ってはいない。地元のほたるを確保し、卵のふ化を助けている。最終的には自然繁殖でもっていき、他の地域には養殖した卵の状態で運んでいけたらと思う。
Voic ● 「ほたる祭り」が非常に楽しみ、地域住民によるボランティアで素晴らしい取り組み。 ● みんなの力が形になって、その地域を整備し、地域おこしに向けているところが素晴らしい。成功したら、市や地域に向けて体系的にアピールしてほしい。
● ほたる祭りのやみくもなイベントを繰り返すのではなく、ネットワークを結び、アピールしてみたいか?

Group 8

8 携帯用ホワイトボード作りによる聴覚障害者支援

NPO法人 要約筆記高知・やまもも



聞こえない人への身近な支援として設立した「携帯用ホワイトボード作り」を2回開催した。8月は夏休みで、親子中心、台風で参加者は10名だったが、加齢者も多かった。「自分のものを作りたいたい」という要望があり、10日は要約筆記の字幕付きで、難聴者と健聴者が一緒に作り、「難しかった、楽しかった」と喜んでくれた。作るだけでなく、使いこなすことも考えていきたい。



Q 今後の講座継続の見通しは?
A 医療現場にもホワイトボードを浸透させたいと思いついて、3回目の講座(2月18日(土)開催予定)では、高知医療センターのボランティアグループ「ハーモニークラウド」と一緒に、また、高齢者施設、ケアマネージャー、保健師などに声掛けをし、現在、3カ所から依頼待ちをしているところ。企業にも声を掛けたい。幼児園は非常に興味があったが、まだ実現していない。
Q 作りおきにしてしまえばいいのでは?
A 作りおきにしてしまえばいい。勉強会を続ける。また、作成時、伝言ゲームをしている。口頭だと情報が伝わりずらいが、ボードの文字は、確実な形で伝達することができる。
Voic ● 活動を重ねる中で、課題を前向きにとらえ、即、次の活動につなげることができて、障害のある人、ない人、それぞれが共に取り組むことができるホワイトボード作りが良い。 ● 家族の気管切開に強い、携帯用ホワイトボードの有り難みが分かった。

Group 9

9 「こうちのまち」と舞台芸術を繋ぐアートNPO活動

高知演劇ネットワーク・演会



(財)地域創造の地域舞台芸術活性化事業で、高知県立美術館(財)高知県文化財団(財)高知文化財団と連携して、高知演劇ネットワーク・演会が主催となり、「ハッダ・ガブ」を8月に富山県で、9月に高知県で上演した。観客数は延べ1,000人。静岡県より誘いをを受け、12月に現地のプロとウィークエンド公演「誤謬」を上演した。「演劇祭KOCHI 2006」の計画で、高知市文化庁が主催する「舞台芸術活性化計画、高知県立美術館ホール」活性化計画への参画もしている。



Q アートNPOとしてアートのグループとの交流、連携は?
A 「演劇祭KOCHI 2006」では、演劇だけではなく、芸術の祭りを目標として計画。2つの施設(高知県立美術館と高知県立牧野植物園)をコーディネートする役目を担っている。
Q 自己負担金(制作費)が、どうクリアしているか?
A 物や衣装の製作、会場費の部分が資金が必要だが、会場費は、高知県立美術館も主催であったので、格差で埋めることができた。自己負担金を少なくするよう努力している。
Q 助成を受けて良かったことは?
A 資金面で助かったこと。いろいろな方面でまちづくりに関わっている人たちが、アートNPOとして、客観的な評価をしてもらったり、活動を始めてくれる人がいたこと。
Voic ● 仕事をしながら、広域的に発着活動を楽しんでいる。演劇力アップもできて、子どもたちの感性を引き出し、夢や希望をもち、夢や希望をもつよう活動を作りたい。 ● 発表が視覚的で、デザイン的にも優れている。アートNPOとしての活動の広がりに感じている。全てのアートを継続するコーディネートに期待している。

Group 10

地球33番地・地域の掃除を通じて住民をつなぐコミュニケーション事業

33フォーラム+劇回33番地



高知県立美術館で市民ミュージカル「キミラマモリ」を12月上演した。また、地域をつなぐ事業として、城を人と掃除したり、「ご縁日祭」を開いたり、新堀小学校、昭和小学校、江崎小学校に配布、蔵での演劇のリハーサル風景の公開、もちつき大会の開催、地元小学校の授業への参画もしている。33番地のイベント(3月3日(金)開催予定)では、子どもたちに演劇指導し、文化の推進に寄与したい。



- Q 町内会、自治会との関係は?
 - A 南金田町内会と弥生町内会の会長とは、ネットワークがあるが、町内会全体と連携して取り組むまでには成長していない。
 - Q 小学校への出前授業の内容は?
 - A 蔵の持ち主と江戸川川の様子を語り、アナウンサーやディレクター、お弁当づくりの人を連れて行った。9月3日(金)のイベントに向け、地域の小学校から寸劇のサポートや伝統工芸の依頼も受けた。
 - Q 演劇は、地域住民向けのテーマ、会場にしたい方はありますか?
 - A 助成事業は、劇団の公演ではなく、そのプログラムを定期的に開催したい。
- Voicce**
- 学校や地域とのつながりをもち、テーマにそって活動をしているところが良い。
 - 1968年頃まで巡遊船が通っていたと思うが、33番地から御島まで瀬戸湾でつなばせ、昔の海上ネットワークのようなものを作ったらどうか?

Group 11

発達障害等の正しい理解と適切な支援を拡げる活動

発達障害等親の会「KOSEI」

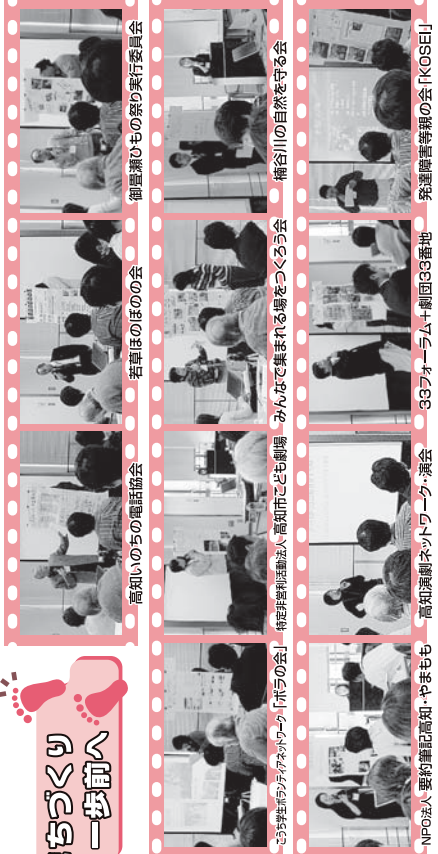


小学校の校内研修(8月)・教職員中心50名、愛媛県での講演会「ハート・フォーラム」(9月)・四国4県300名、KOSEI 4名、学習会(10月)約50名、11月-42名/高知市教育研究所、下知障害者の会、シンポジウム(12月)80名、高知市の各団体、公的な機関と協力し、セミナー(1月)40名、NPO法人えんそくらびの代表を招く。他、ホームページの公開、リーフレット発行、高知大生卒の卒業論文の協力をした。



- Q 会合は一般の人にも参加できるのか?
 - A 誰でも参加できる。また、講師派遣をすることもできる。
 - Q 研修での教員の反応は?
 - A 当初はどこの障音なのか分からないところもあったが、今は共感してもらえている。障音は個人の特性があるので、先生と向き合いながら活動を楽しみたい。
 - Q 今後の活動の展開、啓発活動、困ったことは?
 - A 支援方法やグッズの資料集も作成している。全国的な支援団体と研修会を開いた。フアンに集う団体や他の団体との連携も深めつつ情報提供をしたい。啓発はホームページの内容が分かりやすく、公的機関を中心とした(インプレットの配布も考えている。参加者を多く募るの難しいが、保護者に理解してもらいたいことが重要。
- Voicce**
- 行政任せではなく、自分たちでもできることをする。NPOの本拠地と思う。
 - ホームページができたこと、まちファンを通しての「ボラの会」との連携が良かった。
 - 活発な活動に驚き、力強さを感じた。これからは頑張りたい。

まちづくり一歩前へ



高知のちのちの電話協会、御座満むもの祭り実行委員会、若草ほのほの会、御座満むもの祭り実行委員会、まちづくりネットワーク「ボラの会」、特定非営利活動法人高知市こども劇場、みんなが集まれる場をつくる会、楠谷川の自然を守る会、NPO法人、要約筆記高知・やまもも、高知演劇ネットワーク・演会、33フォーラム+劇回33番地、発達障害等親の会「KOSEI」

まちづくりフアンド 第二回中間発表会を終えて

運営委員長 卯月盛夫



今日は三回目の中間発表会でしたが、これまでが一番良かったですね。時間配分、前半の発表、後半の進行役である運営委員とのやりとりなど、三時間があつという間でした。誰か一人、先生が来て、一時間まちづくりの講演会をするより、もっと実質的に役立つ会だったと思います。冒頭、私は「まちづくりの知恵の交流ができればいいな」と申し上げましたが、本当に期待どおりの会になりました。私は、高知以外のまちづくりの会にもいろいろ参加していますが、今日の中間発表会ほど、一つ一つのグループの活動のことがうまく紹介され、かつ、理解できたというのは、本当に初めてです。

今、ここで壁全体を見渡すと、四色の付箋がとても目立ちます。一番多いのは、黄色(質問)ですが、桃色(良いところ)がとても多いことに気づきました。これはエールです。「素晴らしいですね」という褒め言葉と同時に、「何か同じようなところがあるんじゃないだろうか」という姿勢が受け取られ、温かさややる気を感じ

ました。審査員はどうしても「ここはちょっと問題じゃないの?」などとネガティブなチェックをしていますが、市民の皆さんは、逆にポジティブなものを評価して、桃色(良いところ)を書いています。黄色(質問)にしても、ネガティブなところをチェックするのではなく、自分のところに役立つ質問をしています。緑色(提案)はそれほど多くないですが、黄色(質問)の中に提案的なものもありました。今日、ここにお集まりの方々が、自分たちのグループの活動に何を願っているのか、言葉の背景にはどんなものがあるのかということを考えていただくために、四色の付箋はとても素晴らしい資料で、中間報告に大変役立つことだと思います。

まちづくりには、テーマ型と言われる「縦のまちづくり」や、町内会や自治会のように一つの地域に根差す「横のまちづくり」があり、それをどうつなぐかという話がよく出ますが、「斜めのまちづくり」、縦と横をつなぐような、まちづくりやノウハウがあるんじゃないかと思えます。「高知演劇ネットワーク・演会」は、頭でっかちになりがちなまちづくりを感覚的にアートで楽しんでいます。昨年助成を受けた「若者によるまちづくり委員会」のストリートパフォーマンスにも高知らしさを感じましたが、そのアートというものを、斜め

のまちづくり」にできないでしょうか。

私は建築出身で、まちのデザインを多くやっている関係で思うんですが、少しずつ活動の幅を広げていく時、演劇のように、ある時間、ある瞬間でもいいので、活動の成果を形にして見せる。その形がとっても美しいとか、魅力的だとかいうことが、次につながっていくと思うんです。そういう意味では、「楠谷川の自然を守る会」の「ぼたる」も素晴らしい。ソフトな活動から目に見える形でのまちづくりにもつなげていただけたらと思います。

二〇〇六年度に、このフアンドの助成金の一部門として、ハード整備に対する部門が新しくスタートします。ソフトの活動と市民主体の運営があつて、あとはハードの部外、拠点がある、というような事業に助成する部門です。

これをきっかけに活動の輪が縦、横、斜めと広がって、拠点性が増えていく。こんな展開が期待されると思います。皆さんの今までの活動を、もう一歩、ステップアップするために、目に見える形、ハードなもの、整備資金についても考えていただけたら素晴らしいと思います。

今日は、高知のいろいろなまちづくりの発表を聞かせていただいて、最高でした。どうもご苦勞さまでした。

第3回中間発表会アンケート結果

有効回答数：30名
開催日：2006年1月28日(土)

1 中間発表会を何で知りましたか？ (複数回答あり)

- 運営委員会からの案内 (18)
- センターだより「えぬいOh!!」(3)
- 知人からの口コミ(2)
- ホームページ(1)
- その他(7) → 活動している会の事務局(1) 事務局(1)
- ビックネット(1) 前回のプレゼン(1) まちファンド(1)
- 広報(1) 市役所職員から(1)
- 無回答(2)

2 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか？

- 120%(1) 交流できたという点に興味があった
- 100%(7) いろいろな活動内容が聞けて、おもしろかった
- 助成金のおかげで内容が充実した
- 少し長かったが、つながりを結ぶ所がまだまだあるので、更につながってほしい
- 活動報告をし、4色の色分けをして書いていくのが分かりやすく良かった
- た、より良い活動につなげていくためのアドバイスもあり、発展的で
- いろいろな手法を使って、活動内容がよく分かった。ファンドで活動が広がったり、ステップアップしているところがよく理解できる

- 99%(1) これを機会に発議書について理解と協力、連携ができて満足している。あと5%はまだ発議書について誤解されている人へ、もっと努力して知ってもらわなくてはならないと思う
- 95%(1) 他団体の取り組みについて知ることができて良かった。~7%については、当団体への提案がなくて残念だったこと、周囲からのアイディアも聞きたかった
- 90%(8) 他の活動発表でガンガンしている人の熱意や気持ちに響いて良かった
- 他団体の情報を知ることができて良かった
- 団体同士つながりが見えてきておもしろかった。たくさん仲間がいたんだということを励みに、今後も頑張っていきたい
- プレゼンテーションと同様の緊張感があったが、いろいろな発表で学ぶことが多かった
- 前向きな気持ちになって良かった
- 各団体の思い、活動内容が理解でき、団体同士つながる可能性が大きい会となった
- 各団体の個性あふれる発表が楽しかった。自分が参加している会に生かせるアイデアもたくさん頂いた。昨年7月はドキドキしていたので、和やかな雰囲気だった

- 85%(4) 様々な団体がいろいろな方面で活動していて、パラエティーズはよく分かったが、もっと悩みとか苦労を好転させたケース(具体例)を聞きたかった
- 発表の時間が足りなく、思ったことを全て発表できなかった
- 団体によっては、もっと知りたいと思った
- 自分は20%、皆さんは85%

80%(4)

- 皆さんの発表、それぞれいろいろな活動をされている。充実した内容の発表を聞くことができ勉強になった
- カンパで活動している多くの団体から、地域へ貢献する勇気をいただいた
- 今回の活動発展に期待して

70%(1)

- 無回答(2)
- 時間が早く過ぎた。充実していたということどころ
- 地域の方に参加した。今後の地域づくりの中で、この事業の活用についても検討したいと思う

3 参加されたあなたの立場を教えてください。

- 発表者(13)
- 発表団体の一員として(12)
- 行政職員(4)
- その他(1)
- ファンド委員(1)

4 あなたの年代を教えてください。

- 20歳代(7) 30歳代(6) 40歳代(13) 50歳代(2)
- 60歳代(1) 70歳代以上(1)

5 自由記述

- 感想 中間発表会は、活動内容がよく分かって、とてもいいですね
- 運営委員さんは、「さすがだなア」と思った。人柄あふれるプレゼンテーションも楽しかった
- 審査員の方がとても親切な感じがした。参考になった
- 質問されて気が付いたり、まだ未熟だと反省することが多かった。これから進めたい中で、頑張ろうと思う
- 皆さん、助成金を有意義に使われていると思う。連携や人脈、どの団体も悩みは同じ
- 私も活動が、本当に楽しい。新たな活動、社会の課題を知ることができた。ありがとう
- 7月には「オーツヤってやるやんかあ!!」と感じてもらえる報告ができるよう頑張る。地域の皆さんと一緒に!
- サポート団体の数が増えて、アドバイスや資金面で協力してくれる飲み物など、ありがとう。参加できて良かった
- 改善点 時間とおおりに終わりたい
- 活動アピールタイトルが数分あれば良いかな?
- 休み時間が少なくて、トイレにきよう!! とこで行こうか、困ったよー!
- 4種類の色分けされた紙を、それぞれ項目に合わせて、選んで書き込むのは良かった。同じ紙で「質問」、「応援」など、項目を書いてから内容を書くほうが楽
- 意見交換の付箋を貼る用紙の、団体名の横に受付番号があると良い。また、付箋の「科目」に「質問」、「提案」、「良いところ」、「その他」と書いてもらえると嬉しい
- 質問など、靴つた本人に話をふって、その団体の代表と話してもらった方が分かりやすくて良いかも

まちづくり大さな一歩(ソフトからハード)コース

単に、「私たちの地域に〇〇がほしいから整備したい」、「地域の〇〇が古くなつたから改修したい」といった目的のための助成ではありません。

● 助成スケジュール (平成18年度)

応募受付期間
平成18年5月19日(金)~6月20日(火)

第1次公開審査会
平成18年7月30日(日)

第2次審査書類提出期限
平成18年12月15日(金)

第2次公開審査会
平成19年1月28日(日)

第1次審査通過団体に計画書費用として10万円を限度に助成

整備事業費として最高300万円を助成

審査のポイント

ソフトからハードへ向かう過程ソフトな取り組みや活動から進展して、ハード整備につながっているかどうか。

ハードからソフトへのつながりハード整備を行うことにより、更にソフトな取り組みや活動へと進展しているかどうか。

事前相談・応募受付

公益信託高知市まちづくりファンド (受託者)株式会社四国銀行
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
四国銀行本店お客さまサポート部 信託担当
Tel 088-871-2178 Fax 088-822-4934
【受付時間】 月~金/9:00~17:00 (土・日・祝日は休み)

- 6 公開審査会の開催
 - 日程 第1次 平成18年7月30日(日)
 - 第2次 平成19年1月28日(日)
 - 場所 高知市たかじょう庁舎6階大会議室
 - 公開審査会でプレゼンテーションを行うに際しては、運営委員による審査を経て助成を決定します。
- 7 現地調査の実施
 - 平成19年1月下旬
 - 第2次審査会を行う前に、現地調査を行いますので、立会をお願いします。
- 8 審査の基準
 - ① 今後活動が進展する可能性があるか
 - ② 資金の準備などの早急があるか
 - ③ 新しい視点や方向性があるか
 - ④ 実効性の高い計画か
 - ⑤ 活動に対する意欲が感じられるか
- 9 中間発表会および最終発表会への参加
 - 助成を受けた団体は、中間発表会および最終発表会で、活動の状況、成果等を発表していただきます。
 - 事業終了後は、所定の「最終報告書」を提出していただきます。
- 10 助成スケジュール(予定)

応募用紙配布・事前相談	平成18年 4月20日(木)~
応募受付期間	5月19日(金)~6月20日(火)
第1次公開審査会	7月30日(日)
計画書費用の助成金交付	8月上旬
第2次審査書類提出期限	12月15日(金)
現地調査	平成19年 1月下旬
第2次公開審査会	1月28日(日)
助成金の給付	2月上旬
中間発表会(中間報告書提出)	7月28日(土)
最終発表会	平成20年 1月26日(土)

※この「まちづくり大さな一歩」コースは、財団法人民間都市開発推進機構による「住民参加型まちづくりファンド」への資金拠出制度を活用し、当公益信託が助成制度です。高知市内にお住りの方からまちづくりのハード整備事業に対して、平成18年度より総予算1千万円の範囲内で助成事業を行っています。

- 1 応募資格
 - 活動拠点が高知市内にある構成3名以上の団体で、そのうち3分の1以上が高知市民(高知市に居住、通勤または通学している人)である団体
- 2 助成の対象となる整備
 - 自然環境の保全や自然環境の整備、福祉、教育、文化、スポーツ、生涯学習など住みやすいまちづくり、および人と人との豊かな関係の構築や人づくりなど、高知市を住みよいまち、豊かに地域社会にいくために必要とされるまちづくり整備
 - 対象外
 - ・ ソフト事業に関する経費
 - ・ 高利を目的とするもの、宗教的・政治的な整備事業
 - ・ 国、地方公共団体等が助成等を受けている、または、受けようとしている整備事業
 - ・ 市の制度で助成を受けている事業や「公益信託まちづくりNPO」地域社会づくりファンドの助成事業
- 3 助成金額
 - 上限300万円(助成率100%)
 - 助成団体が負担する「自己資金の拠出割合」についての制限はありません。
 - 助成団体は、第1次および第2次の二段階審査によって決定されます。
 - 第1次審査で数件の助成候補を選定し、第2次審査で1件程度に助成決定する予定です。
 - 第1次審査状況や選考結果に応じて助成を見送りとする場合もあります。
 - 第1次審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成します。
 - 一つの団体がこの助成コースから受け得る助成は1回限りです。
 - この「大さな一歩」コースへ助成申請する団体は、同一年度、当ファンドの「まちづくり大さな一歩」コース(「まちづくり一歩前」コース)に助成申請することはできません。
 - 助成対象となる整備が行えなくなると、助成対象の要件を次いたとき、相当の理由がなく整備の内容と応募内容が著しく異なると、助成金の一部または一部を返還していただく場合があります。
- 4 提出書類
 - 大さな一歩コース専用の所定の「応募用紙」に事業計画等を記載のうえ、四国銀行にお客さまサポート部に提出してください。
- 5 事前相談・応募受付
 - 所定の「応募用紙」に必要事項を記入のうえ、5月19日~6月20日の期間に四国銀行にお客さまサポート部まで直接ご持参ください。受付時に企画内容についてお尋ねします。企画内容がよくなる方がお返しください。
 - なお、事前に応募の内容や応募用紙の書き方などについて、質問や相談のある方もお気軽にお問い合わせください。

